

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
32	川崎市立 南加瀬小学校	渡部 陽子

学校教育目標	今年度の重点目標
心豊かでたくましく、実践力のある子どもの育成 ○思いやりがあり、協力できる子 ○進んで学び、よく考える子 ○何事にもくじけず、がんばる子 ○地域で学び・地域で育つ子 R6キャッチフレーズ「思いやり、進んで学び、くじけない、地域と育つ南加瀬」	○共生・協働の姿勢を育てる(自尊感情の育成、いじめや暴力を許さない学校環境の構築) ○自学・自習の姿勢を育てる(思考力の育成を支える基礎学力の定着、読書活動の推進) ○自主・自立の姿勢を育てる(基本的生活習慣の定着、健康・防犯安全教育の推進) ○地域や保護者との連携(地域の人材活用、地域と連携した児童の安全確保)

評価項目	具体的な取組(○今年度重点)	成果と課題	具体的な改善策
1 共生・協働の姿勢を育てる	○支援教育コーディネーターを中心とした児童理解とチーム支援の充実 ○互いに認め合える学級集団作りや教職員の人権意識を高めることを目指した教職員研修の充実 ・人権意識を大切に児童指導の徹底「教室を安心・安全基地に」 ・人権尊重教育の推進 ・いじめ、暴力の未然防止 ・共生・共有プログラム、効果測定、SOS出し方受け止め方教育の計画的な実施 ・異学年交流やふれあい活動の充実 ・児童の主体性を大切にしたいあいさつ運動など特別活動や学校行事の実施	・校内の支援体制が構築され、個別に支援が必要な児童の状況把握や支援方法の検討が順次行われている。教育相談日や巡回カウンセラーの相談窓口等の保護者への周知により、教育相談の充実にもつながった。 ・児童の状況について、学級担任だけでなく学年担任・支援教育Co・必要に応じて管理職で、常に情報共有とチーム対応をしてきた。スピード感のある対応に今後も努める。 ・人権集会や共生*共有プログラムを通して、児童が自分の良さや他者理解の大切さに気づけるよう努めた。児童自身ももっと実感できるよう、今後も取組を継続していく。 ・「安心・安全な教室」を合言葉に、教職員の人権感覚や感度を上げるよう研修を重ねた。学年での交換授業等の効果が児童理解が深まり、早めに対応できることが多かった。 ・委員会、クラブ活動の立ち上げや異学年交流の実施により高学年の育ちが見られた。担当教諭とリーダーの児童が事前に打ち合わせをし、教師も児童の活動を支援できるよう努めた。 ・あいさつ運動に全校で取り組み、児童の意識が高まっている。教職員も積極的な挨拶や声かけを行ってきた。 ・「かせつこのめあて」について共通理解と指導の徹底を図った。どの職員も同様に指導をすることで、約束を守ろうとする児童が増えている。 ・コミュニケーションの苦手を抱える児童への支援のニーズが高まっている。支援方法の検討が課題である。	・全校でのあいさつ運動の継続と共に、相手や場に応じた言葉遣いを大切にできるようにしていく。教職員も積極的に児童への声かけを行うとともに、正しい言葉遣いや言葉かけの質の向上に努めていく。 ・次年度も「安心・安全な学校」を目指し児童支援体制の充実を図る。さらに教室での一次支援・校内の支援体制(取り出し指導や別室登校を含む)の更新に努める。 ・いじめやトラブル防止に対し、引き続き「はやく!みんなで!」を合い言葉に、教職員の研修を継続する。 ・SOS出し方受け止め方教育、共生*共有プログラムを計画的に実施し、教職員全体での見取りや研修も継続する。学級・学年を超え、互いの実践を見合う機会を作る。 ・教育相談や児童理解について職員の研修を継続する。また担任が問題を抱え込まない体制を改めて確認し、チームで解決にあたることを基本に据えていく。 ・学校の約束事について、わかりやすく提示できているかを、部会を中心に振り返っている。より皆で共有し、どの教員も足並みを揃えて指導できるように更新していく。 ・次年度も児童主体の特別活動を意識し、各学級での係活動や学級会運営について児童の経験を積み重ねていく。
2 自学・自習の姿勢を育てる	○基礎学力の定着 ○個別の学習状況に合わせた指導方法の工夫 ○朝読書タイムの継続実施と日常的な読書活動の充実 ・伝え合いやかかわり合いを大切にしたい校内授業研究の実施 ・GIGAスクール構想の理解と積極的な活用 ・学年交換授業・教科担任制の推進 ・校内OJTの充実(教員間での研修の実施)	・つまずきやすい中学年の算数科を中心に少人数指導を行ってきた。今後も効果的な学習形態を単元や学年に応じて柔軟に考えていく。 ・校内研究では、国語科で「自分の考えに根拠をもち、伝え合い、学びを実感する子」の育成を目指してきた。全担任が授業実践し、学年を中心に研究を深めた。講師からの学びを児童の実態に合わせ、即実践する姿も見られた。 ・GIGA端末の学習の中での日常的な活用を推進してきた。長期休業中の持ち帰りや宿題の取組も定着してきた。調べ学習のみならず、互いの考えや意見を交流し合う場としての活用等工夫も見られた。教職員全体のスキルを上げるには、研修の継続が必要である。 ・全校で読書活動の推進に努めてきた。朝読書の時間の確保や、「味見読書」の実践など、児童の興味関心を高める工夫をしてきた。図書室利用は少しずつ増えているが、まだまだ全校的な日常化にはつながっていない。さらに魅力ある推進活動を検討していきたい。	・本校の児童の良さである素直さや前向きな姿勢を大切に、学習を柱に児童の自己肯定感を上げていきたい。教師の意識的な価値づけの言葉かけを検討していきたい。 ・どの教科においても学習の中で子供どうしの関わり合いを継続し、自分の考えを互いに伝え合う活動を大切にする。 ・教員は自身の授業スタイルを見つめ直しながら授業改善を図り、児童が見通しをもって学べるよう、わかりやすく意欲が高まるよう指導力を磨く。 ・次年度も校内OJTの充実を図る。 ・図書館の貸し出し時間や日数、貸し出し冊数の増加を計画している。また、朝読書の継続、教師自身の図書館活用のスキルアップにも継続して取り組む。 ・次年度も学年での交換授業や専科制の導入に積極的に取り組み、児童が安心して学べるようにするとともに、教職員の授業力アップと働き方改革のどちらにも生かせる取組を継続する。

3	<p>自主・自立の姿勢を育てる</p>	<p>○基本的な生活習慣定着のための指導の継続 ○「自分の健康・安全は自分で守る」ための健康・安全教育の計画的な推進 ○防災教育の充実と計画的な訓練の実施 ・きらきらタイム等の活動を通じた体力の向上の推進 ・休み時間の外遊びの励行 ・給食指導を通しての食育の実践 ・GIGA端末・携帯電話・通信機能付きゲーム機等に拘わる情報モラルと危機回避のための教育の実施</p>	<p>・「早寝早起き朝ごはん」を日常的に伝えてきた。 ・キラキラタイムを計画的に実施。外遊びをする子も増加傾向にある。今年度は「キラキラチャレンジ」への取組はなかなか浸透しなかった。 ・緊急時下校訓練、風雨災害時の垂直避難訓練、予告なし避難訓練等を実施。緊急時には自分の身を守る「おちたいと」の合言葉を指導してきた。毎回の訓練に児童は真剣に参加していた。今後も訓練が形骸化しないよう更新していく。 ・SNSの使い方等については、ゲストティーチャーを招き、情報モラル教室を行いトラブルの未然防止に努めた。保護者にも同様の内容を周知し協力を仰いでいく。</p>	<p>・次年度は「キラキラチャレンジ」に年度当初から取り組めるよう、体育部会を中心に推進していく。 ・日常的に避難経路の掲示などを行っているが、児童にとっても、よりわかりやすいものに更新していく。 ・GIGA端末の活用については、研修を継続し教職員のスキルアップを目指していく。</p>
4	<p>地域や保護者との連携</p>	<p>○地域人材を活用した学習カリキュラムの作成 ・区役所との連携や新たな教材開発 ・100周年の取組として地域清掃活動の実施 ○町内会、PTAと連携した通学路の安全、放課後の見守り活動の実施・通学路等の定期的な点検 ・地域教育会議やあいさつ運動等を通しての南加瀬中学校区の中小連携の充実 ・保護者や地域への積極的な情報配信 ・定期的な教育相談日の設定 ・夏祭りや地域行事参加への呼びかけ ・子供の安全を最優先にした、主任児童員、民生員、子ども見守りセンター等の専門機関との連携強化</p>	<p>・100周年の年を節目として、今まで以上に地域の良さに目を向け、地域に愛着をもてるよう、生活科や総合的な学習での単元を工夫した。地域で働く人の思いや仕事に目を向け、学ぶ機会も設けた。認知症サポーター養成講座なども実施した。 ・放課後の校庭開放が始まり、児童が中心になり良い遊び方が定着しつつある。公共性や公園での遊び方・近隣への配慮については、継続して見守りが必要である。 ・PTAとの連携を密にし、児童の安全に関わる活動（旗当番・かせっこパトロール）をともに行った。地域を含んだ見守り体制が構築されており、登下校や放課後遊びの安全につながっている。 ・地域教育会議の開催に際し子供会議に参加した。中学校を含めた4校の児童間の交流が図られ、児童の意欲につながった。 ・今年度も年に2回、学校教育推進会議を実施し、児童の実態や学校の教育活動について地域の理解を得ることができた。</p>	<p>・地域を大切にしたい学びを深めるため、教材開発や人材発掘を継続して行っていく。 ・学校ホームページや学校便りにて積極的に学校の教育活動を発信していく。 ・保護者や地域との連携を大切に、地域行事への参加の呼びかけや周知などに学校も協力していく。 ・次年度からは本校でも学校運営協議会制度が始まる。これまでの学校教育推進会議を生かし、より地域との関係を深めていきたい。 ・中学校区の連携を継続し、常に情報共有していく。 ・次年度も「みんなの校庭プロジェクト」や公園遊びについて児童を中心に振り返りながら、安全で楽しい放課後遊びへの意識付けを行う。</p>
<p>学校関係者の評価</p>		<p>学校運営のまとめ</p>		
<p>・全体的に落ち着いていて穏やかな雰囲気の中で学習や活動をしている。皆まじめに学習している。 ・友達と関わって学んでいる様子が伝わってくる。 ・児童は校内だけでなく、校外でも気持ちの良い挨拶をしてくれる。あいさつ運動の取組が素晴らしく成果が出ている。 ・「味見読書」の実践等素晴らしい。本を読むきっかけが広がっていく。 ・GIGA端末が1年生でも活用されている。調べるだけでなく様々な場面で活用されていた。 ・委員会やクラブ活動等、日頃から児童の主体性が大切にされている学校。 ・GIGAを推進しながらも体験活動も充実させてほしい。 ・PTAとしても地域とのつながりを大切にしていきたい。</p>		<p>・「チーム南加瀬」の充実を第一に掲げ、児童一人一人に担任だけでなく複数の教員が日常的に関わり専科授業や交換授業に取り組んできたことにより、児童の安心や教職員の意識改革、また業務改善の意味でも一定の成果があった。次年度も継続して取り組んでいきたい。 ・支援教育COを中心に、児童支援上の課題に素早く、かつ連携して対応する体制が整いつつある。児童や保護者、教職員のニーズに応じた支援方法について常に検討し、次年度も充実を図る。 ・校内研究の充実を図り、国語科を中心に良い授業を目指し授業改善を図ってきた。三年間の国語科の研究を踏まえ、次年度の研究体制について検討し、より授業力を高めていけるよう努める。 ・次年度からはコミュニティースクール(学校運営協議会制度の導入)となる。地域や保護者とのつながりをこれまで以上に意識し、持続可能な形で関係性を構築していきたい。また積極的に情報発信を行っていく。</p>		